

②「単元開発ワークシートを活用した授業づくり～小国語１段階の実践～」

鳥取県立皆生養護学校教諭

● 学校研究の背景

- 「豊かに社会で生きるための資質能力を育てる教科の授業づくり」を研究テーマに設定。
- 国語科を中心に、三観点（知識技能／思考判断表現／学びに向かう力）で実態を捉える。

● 実態把握

- 覚醒が低く、反応は限定的。
- しかし、特定のオノマトペや感覚刺激に反応が見られる。
- → 三観点での整理により、曖昧な反応の意味を構造化できる。

● 単元開発

- 「好きな感覚と言葉で楽しもう」を単元テーマに設定。
- 10時間の計画で、前半は知識技能、後半は思考判断・主体性を扱う。

● 記録と評価

- 教師の思い込みを排除し、事実記録を重視。
- 刺激の強さや量を調整し、言葉→感覚のサイクルを意図的に構成。
- 他教科・生活場面への広がりも確認し、次単元へ接続。

● 意義

- 三観点での実態把握 → 単元開発 → 評価 → 生活場面への広がり という一連の流れが、教科の学びを生活に接続する。

<グループ協議における参加者の意見>

- A先生:非常に丁寧なシートで、子どもの学びが成立する授業につながる。自校でも教科の目標・内容を読む習慣が弱く、改善の参考になる。
- S先生:年間のMT回数や学校運営上の負担を質問。シートの質のばらつきが出ることを懸念し、年度末の整理方法を尋ねた。
- S先生:観点別評価の出発点(スタートライン)をどう共有するかが学校的課題。
- 複数の参加者:目標設定が活動の言い換えになる問題は全国共通の課題。実態把握が曖昧だと単元目標が上滑りし、子どもが寝てしまう授業になる。ファシリテーター配置は有効だが、力量差のある教師集団では支援体制が不可欠。